

富士宮高校会議所

まちづくり座談会

「市民力・地域力を結集した活性化事業」を学ぶ

グラウンドワーク三島事務局 長の渡辺豊博さんが講話

富士宮市内の5高校の生徒が地域活性化に高校生の視点と感性で事業展開に取り組んでいる『富士宮高校会議所』は25日、西町レトロ館で「グラウンドワーク三島」事務局長で都留文科大学文学部特任教授の渡辺豊博さんを講師に迎え「まちづくり座談会」を開いた。

渡辺さんは、東工大農学部農業生産工学科を卒業後、静岡県庁に入庁、農業基盤整備事業の計画実施に携わり、企画部空濠対策課主幹・農地森林部農地計画課主幹などを経て、農学博士号取得後には都留文科大学文学部社会科学科環境コミュニ



「グラウンドワーク三島」事務局長の渡辺さんが解説

市民活動論・地域環境計画論・NPO実践論・地域環境計画ゼミなどを開講、2016年からは同大学の特任教授を務めている。富士山クラブ・富士山エコネット・富士山測候所を活用する会の事務局長や専務理事を歴任、測量士で環境カウンセラー（市民部門）、まちコンサルティング、パートナーシップトラストな

でも活躍している。日本で初めて市民・NPO・行政・企業がパートナーシップを組むグラウンドワーク（環境改善活動）を行う「NPOグラウンドワーク三島」を立ち上げ、「水の街、三島」のイメージを掲げ、ドブ化した源兵衛川の水辺再生、水中花三島梅花藻の復活、松毛川周辺の貴重な河畔林の保護活動など学校ビオトープの建設、住民主体による遊水地の計画づくりと維持管理など60余のプロジェクトを実践して、「三島の活性化を成功させた立役者」としても知られる。

一般市民と高校生と街おこしについて、それぞれ役割を考え、活性化事業の推進に意識を高めることを目的に開かれた同日の座談会は「まちづくり感動の夢舞台」と題して開かれ、一般市民の参加も呼びかけたところ、多くの市民の関心を集め、会場の都合で30人程度と予定した以上の参加者が訪れ、席が埋まる盛況の中で催された。

渡辺さんは「企業とNPOとの協働による社会的ビジネスの創業（市民力・地域力を結集してホテル飛び交う水の街を創造）」と題して、三島市の「水の街」活性化事業とグラウンドワーク三島の活動事例を示しながら社会的ビジネスの経営理念やNPOビジネスの創業を通じたまちづくりに関しても解説を進めた。事業のモデルとした英国で始まったグラウンドワーク（環境改善活動）に関して「英国における社会的企業の最新情報（公共の新しい担い手として）」の解説も行い、講話に続いての座談会で意見交換も行った。高校会議所のスタッフには、これからの人生の可能性を拓く生き方なども語りかけ励ました。

聴講の高校生会議所のスタッフや一般参加の市民たちは、市民力・地域力を集めた地域活性化の事業の成功例に関心を深め、渡辺さんの講話から高校生と市民のまちづくりの役割を学び、地域活性化に意識を高め合った。

富士宮高校会議所・事務局の時田定則さんは「三島・水の街」活性化立役者・渡辺さんの話から高校生会議所のスタッフも自分たちができる今後の活動に大きな刺激を得たようです。沢山の市民の方にも聞いていただき、高校会議所と市民の協働・連携の第一歩にもできるのではないかと思います」と語っていた。